



灯の集團

三國玲子歌集

沖積舎

灯の集團 三國玲子歌集

昭和五十六年十月十五日発行

発行人 沖山隆久

発行所 沖積舎

東京都千代田区神田神保町一―五二郵便番号一〇一

電話二九一―五八九―振替東京三―一七七六三二

若葉印刷＋愛千製本

灯の集團

三國玲子歌集

沖積舎

三國玲子歌集

灯の集團

装幀＊田中淑恵

目次

路傍の火	7
遂げざれば	10
なほ長く	12
苺の匂ひ	15
雲の分佈	17
レクイエム	22
海の落日	25
月明の森	28
後退の世に	34
雪降りてゐし	39
頒つ人なし	47
灯の集團	55
羞しさに	59
木の実のごとく	64
ひかりを裹む	69
風ぐるま	72
あとがき	76

路傍の火

（昭和年
22年—23年作品）

学びつづいづれも若く貧しくて父と母とが相知りし日よ

若き若き吾等と思ふさやかなるいてふの下を歩みゆくとき

ミシンライト灯して励む幾日か夕べ夕べの空の恋ほしく

平凡に齡^{よはひ}重ねゆくかなしみに路傍に燃ゆる火を見てゐたり

はつはつに芽吹くもありてしろがねに光る枝々暁の空を指す

遂げざれば

（昭和24年作品）

鱗雲の下に芽を吹く樺が見ゆわが憧るるは厨の窓の外

遂げざれば直ちに死する烈しさを遠き世のごと読み懂れき

渝^{かは}らじと誓ひしは君にあらずや悔ゆるやと問ひしは君にあらずや

なほ長く

(昭和26年作品)

なほ長く若き月日のある如く髪を短くきりて貰ひぬ

ささくれし唇乾き目覚むれば薫らぬ花のごとく佗しき

うつくしく人は結ばれゆくものを裁ちあやまちし吾は湯に来つ

掲げあるマチスの言葉読み終へて眼差遇へば微笑みあひき

苺の匂ひ

(昭和27年—28年作品)

苺の匂ひする紅溶きてゐる明るくならむ優しくならむ君の言ふやうに